

韓 国 語

第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

問題の形式は本試験と同様であり、第 1 問への評価は省略する。前年度とは反対に、第 4 問の長文が、本試験より難易度が高かったように思う。

例年通り本委員会では、平均点を基にした評価は行わず、「高等学校で 4～5 単位を 3 年間学習した生徒」が受験することを想定して各問題の評価を行う。また、その際の難易度・学習範囲の基準として、中級水準となる、韓国語能力試験 (TOPIK) のⅡ (3～4 級) 及び「ハングル」能力検定試験の 3 級～準 2 級レベルを想定していることをここに明記する。

なお、評価に当たっては、報告書 (本試験) 14 ページに記載の 8 つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内容・範囲等

本試験同様、前文の「高等学校 4～5 単位を 3 年間学習した生徒」の学習到達度を測ることのできる問題であるかどうかを判断した。また、紙面の制限上、第 1 問については、適切な問題とは言えない問いを中心に取り上げることとする。

第 1 問

A 発音に関する問題

問 1 の「문구집」, 問 2 の「늦여름」は学習範囲外の単語である。また、問 1 の「문구집」は、本試験の第 1 問 A 問 2 の「태권도」とは反対に発音の規則通りに「ㄱ」は有声音化する。この規則通りの出題だけなら学習範囲外の単語であっても充分解けるとは思うが、本試験の「태권도」のように規則通りの発音でない単語の出題が混在すると、受験者にとっては非常に紛らわしい問題となる。かつ、それが「実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定」をより重要視した出題なのか、甚だ疑問である。本試験同様、第 1 問 A の発音に関する問題の出題の方法を再検討していただきたい。また、同じような出題形式は、今後、されないことを切に願う。

B 適切な助詞、語尾、語彙を選択する問題

問 4 の正答①の「-길래」と誤答②「-다시피」は、学習範囲外の文法項目で良問とは言えない。問 4 以外は学習範囲内の語彙や表現、文法であるが、知識のみを問う問題が、共通テストで必要とされる思考力を問う問題と言えるか疑問が残る。

C 類似した意味を問う問題

問 1 の誤答②の「-건만」と問 2 の「한눈 팔다」, 及び、誤答④の「변명」は、学習範囲外の語彙、表現で良問とは言えない。問 1 以外は学習範囲内の語彙や表現、文法であるが、知識のみを問う問題が、共通テストで必要とされる思考力を問う問題と言えるか疑問が残る。また、第 1 問 B 問 8 の「첫눈에 반하다」と問 2 の「한눈 팔다」は、同じ「눈」が使われている慣用句である。限られた問題数の中で同じ語彙の出題は避けた方が良いのではないだろうか。少なくとも、体の違う部位を使った慣用句で出題する等の工夫が望まれる。

第 2 問 比較的長い会話文を読んで、空欄に入れる適切な表現を選んだり、会話文の内容を把握したりする問題

A ファーストフード店でのやり取りから外来語について話をする対話文。外来語の学習は重要であり、母語における同じ意味の語彙との比較も重要なので、良問と言える。

問1 店員がお客に対して発話しない文を選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

問2 空欄に入る適切な表現を選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

問3 前後の対話文から空欄に入る表現を選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

問4 前後の文脈を読み取れば解ける問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

問5 本文の内容と合うものを選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

B 自然科学者Xと人文学者Yの対話文。立場の違う二者が、いかにすれば環境をこれ以上破壊せず、自然社会と共生していくことができるかについての方策を話し合うという内容。長文問題以外の対話文で、このような社会時事を含んだテーマを扱うことはあまり見られなかった。語彙的には、若干難易度が高いが、扱うテーマや議論の進め方については適当であり、対話文としては良質であると言える。以下に各問の内容を見ていく。

問1 文中の인간이 이대로 살다간 머지않아 망하겠지요. (人間がこのまま生きていけば、遠からず亡びてしまうでしょう)の内容に近い文を選ぶ問題。正答は、①인간이 지금처럼 지혜롭지 않은 삶을 계속한다면 가까운 미래에 사라질 것이다. (人間が今のよう賢くない生活を続ければ近い未来に滅びるであろう)。前後の対話文の意味が理解できれば解ける問題。

問2 文中の単語어디の代わりに挿入可能な単語を選ぶ問題。正答は③과연。어디に否定的な問いかけの意味があることが理解できていれば解ける問題。ただ、誤答④감히は範囲外であり、良問とは言えない。

問3 文中の空欄に接続語を入れる問題。前後の文意を理解していれば解ける問題。良問。

問4 文中<A>に入れる文章を選ぶ問題。対話文で扱う「共生」の意味が理解できていれば解ける問題。適当な問題と言える。

問5 文中の内容と一致する文章を選ぶ問題。正答は④'두터운 세계'란 다양한 사람들이 서로를 인정하고 공존하는 세계이다. (情に厚い世界とは多様な人々が互いに認め合い共存する世界だ)。対話文全体の文意を理解していれば解ける問題。良問と言えよう。

第3問 以前から、評価委員が、図表やグラフ、イラスト、広告などから情報を読み取り解く問題を出題してほしいと要望していたが、前年度の共通テストより、図表やイラストを使用した出題が多くなされ、今年度も引き続き出題された。

A 図表やグラフが何を表しているか読み解く問題

問1 飲食のデリバリーサービスについての意識調査結果を表したグラフを読み解く問題。学習範囲内の語彙が使用されており、良問と言える。

問2 ウェブサイトのトップページに記載された見出し文を読み解く問題。語彙の難易度は範囲内であるが、見出し文は独特な表現形態であるため、一定程度の「慣れ」が必要である。その分、難易度がアップしている。本試験と同様に、設問の数をもう1つずつ増やすのが良いと思われる。

B お菓子を作る説明書から必要な情報を読み取る問題

問1 説明書から必要な情報を読み取り、組み立てた完成図を選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題。

問2 本文の内容と合うものを選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

C 旅行会社の案内文から必要な情報を読み取る問題。

問1 案内文の複数の表と注意事項から必要な情報を読み取る問題。適当な問題。

問2 本文の内容と合うものを選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言えるが、設問形式がBと同じで、本文の内容と一致するものを2つ選ぶ問題である。この部分は本試験と違い、本試験は、BもCも、設問が3問ずつあり、本文の内容と一致するものは1つ選ぶだけで、後の2問は違う形式の設問であった。この「本文の内容と一致するものを選ぶ」設問は、第2問以降、第3問A以外全てに出題されている。もう少し多様な設問形式での出題を望む。

第4問 長文読解問題。ドイツの社会心理学者エーリッヒ・フロムの『愛するということ』をもとに、愛するという行為を成功させるためには、愛という行為を相手の問題として受動的にとらえるのではなく、行動する主体者として論理的に実践することが大切であると主張するエッセイ。語彙・表現及びテーマ、分量とも、難易度の高い文章であり、中級程度の学習者の学習到達度を測定する課題文としては適当とは言い辛い。以下に各問を見ていく。

問1 漢字語の知識を問う問題。適当な問題である。

問2 文中の下線部㉞ 몇 가지 전제 (いくつかの前提) が指す内容に含まれない文章を選ぶ問題。正答は㉟매력을 갖추는 것보다 능력을 키우는 것이 중요하다고 생각한다. (魅力を持つよりも能力を育てることが重要であると考える)。前後の文章の意味を理解していれば解くことができる。

問3 下線部 a 사회적 경험 (社会的な経験) と b 개인적 경험 (個人的な経験) の例の組合せとして適当なものを選ぶ問題。正答は㉠부모가 선택한 사람과 결혼하는 것 (両親が選んだ人と結婚すること) と㉡사귀다가 상대가 싫어지면 헤어지는 것 (交際して相手が気に入らなくなったら別れること)。適当な問題。

問4 文中に入れる適当な言葉を選ぶ問題。正答は㉣기껏해야 (せいぜい)。中級学習範囲内で適当な問題。

問5 下線部㉣과정 (過程) が指すものとして適当なものを選ぶ問題。正答は㉠이론을 공부하고 실천법을 습득하는 것 (理論を学び実践方法を習得すること)。前後の文章の意味を理解することができれば解ける問題。

問6 愛の理論で重要なものは何かを考えさせる問題。後述される文章の内容が理解できれば正答が可能であるが、精読が必要。

問7 文中に入れる言葉を選ぶ問題。객관적 (客観的), 구조적 (構造的), 적극적 (積極的), 필연적 (必然的) の各語を正確に使用できることが求められる。

問8 以下の文をどこに挿入すべきか選択する問題。현대 사회의 모든 문화가 서로 간의 유리한 거래라는 관념에 바탕을 두고 있다는 사실도 그 하나의 배경이다. (現代社会のすべての文化が互いに有利な取引である観念に基づいているという事実もその1つの背景だ)。前後の文章の精読が必要。難易度が高い問題。

問9 課題文の内容を精読し、論理性を正確に把握する必要がある問題。高度の読解力を必要とする問題。

問10 課題文の内容と一致する文章を選ぶ問題。問9と同様に、課題文の論理性を正確に理解していないと正答を導くことができない問題。中級学習者には難易度が高い問題と言える。

3 ま と め

追・再試験の問題難易度は、ほぼ本試験と同じである。また問題の形式も同様であり、詳細は本試験のまとめを参照していただきたい。いずれにしても、中級レベルの学習者を想定した問題を、今後より学習指導要領が求める「思考力・判断力・表現力等」を問う問題に発展させるための研究が必要となってくる。